年齢の違いによる求める指導者像の違い

中川　寛人（生涯スポーツ学科　地域スポーツコース）
指導教員　新井　博

キーワード：年齢、理想、指導者

1．緒言

今まで様々な指導者と出会ってきた。その指導者の中にはさまざまなタイプの方がおり、当時は嫌いだった指導者でも今考えてみれば、その指導が自分のためになっていることもある。そこで理想の指導者像について興味を持った。研究の方法は、滋賀県高島市立マキノ中学校、滋賀県立高島高等学校、びわこ成蹊スポーツ大学学生に対し、選択式アンケートを実施する。

2．結果および考察

人格・人柄の項目に関しては、中学生は他と比べ「楽しさ」を重視する意識が強いことがわかった。また高校生中学生は、中学生に比べ「指導者と選手との関係性」や「指導者の能力」を重視していることもわかった。

技術面の指導に関しては、ここでも中学生は他に比べ「楽しさ」を重視している結果となった。

精神面の指導に関しては、中学生と高校生は共に、楽しさを最も重要視するが全体的に大きな差が出ない結果となった。大学生は他と比べ、「指導者と選手との関係性」を重視する割合が高いことがわかった。

教育面の指導に関しては、中学生と高校生は大学生に比べ、「楽しさ」を重視する傾向にあることがわかった。また、全体的に「指導者の能力・実績」は支持される結果となった。

これらの結果より、中学生の世代は全体的に指導の中に楽しさを取り入れ、その中でも指導者と選手との関係性を大切にした指導を行うこと、また特に教育的指導を重要視して行うことを理想の指導としているのではないだろうかと考察出来る。

高校生の世代に関しては、指導者自身に優れた実績や指導能力があり、その中で選手との関係を大切にすることに加え、中学生と同様に特に教育的な指導に力をいれる指導を求めていると言えるだろう。

大学生の求める指導者像とは、選手との関係性を最も大切に考え、教育的指導を重要視する指導を行い、尚且つ教育的な指導能力や実績がある指導者であると言えるだろう。

3．結論

今研究において、選手が描く理想のスポーツ指導者像は、年齢という要因によって違いが生じるということがわかった。

具体的には、指導対象者の年齢が上がるに連れて指導の中に直接的な楽しさから徐々に間接的な楽しさを求めるようになること、そして本研究対象者における全ての世代において、指導者と選手との関係性を重視する傾向があることに加え、スポーツ指導の中に教育的指導を求める意識を持ちやすいということが明らかになった。

参考文献

１、　小林　なつき
「部活動における指導者の評価の言動に関する考察－「ほめる」「しかる」の実態と指導のあり方について」
http://sport.edu.ibaraki.ac.jp/semi/2007/28kobayashi.pdf